



異文化コミュニケーション学会

SIETAR JAPAN

SIETAR Japan 6月, 7月, 9月定例会

パラダイムの転換を図る異文化コミュニケーションのための教授法  
Paradigm-shifting Teaching Methods for Intercultural Communication



「文化的背景の異なる人々がいる。私たちとは異なる文化がある。そしてそのような違いは尊重されるべきである。」国際化時代に盛んになった異文化コミュニケーション教育は、このようにして語ることから始まりました。しかしこのような語り方をすると、社会的カテゴリーは実体化して受け止められやすくなります。たとえば日本人、アメリカ人、高齢者、政治家、スポーツ選手といったカテゴリーの名前で表される人々が、あたかも世界にそういった形で実在する存在として、認識されやすくなってしまいます。多様性という言葉が身近になった今の時代においては、私たちが日常のあらゆる場面でさまざまに異なる立場性をつくり出していることに自覚的になるべく、語り口をアップデートした異文化コミュニケーションが必要ではないでしょうか。このパラダイム転換をサポートすることが、昨年12月に出版した『異文化コミュニケーション・トレーニング：「異」と共に成長する』（2022年、三修社）の目的でした。

本書をめぐり、今欲しい考え方がすんなりと頭に入るとい声のある一方で、理論的すぎてわかりにくい、従来の異文化トレーニングとかなり違うため戸惑うといった反響もいただきました。そこで、今の社会について、現場での教育実践について、率直に語り合い、現代的な課題と本書との接点を見つけて活用できるようにするための3回のシリーズを企画しました。



第1回 2023年6月25日(日) 13:00~16:00

「異文化コミュニケーションに今、何ができるのか? : 身近に顕在化した異なりとしての〈異〉と向き合う」

山本志都・石黒武人, 方法: ONLINE (ZOOM), 日本語 Language: Japanese

第2回 2023年7月15日(土) 13:00~16:00

「ステレオタイプを乗り越える: 文化や社会的カテゴリーを用いることが不都合ではなくなる文脈を確立する」 鈴木有香・山本志都・石黒武人, 方法: 対面 (in person), 日本語 Language: Japanese

第3回 2023年9月3日(日) 13:00~16:00

「異文化コミュニケーション教育の新たな出発点: あいまい、あやふやになっているところを整理する」

Milton Bennett・山本志都・石黒武人, 方法: 対面 (in-person), 日本語と英語 Language: Jpn & Eng

第1回 2023年6月25日(日) 13:00~16:00

テーマ: 異文化コミュニケーションに今、何ができるのか? : 身近に顕在化した異なりとしての〈異〉と向き合う

講師: 山本志都・石黒武人

方法: ONLINE (ZOOM), 使用言語: 日本語 Language: Japanese

ワークショップ概要:

今の時代に、なぜ異文化コミュニケーションに取り組む必要があるのかを、学ぶ人にどう伝えることができるでしょうか。「パラダイムの転換を図る異文化コミュニケーションのための教授法」第1回では、異文化コミュニケーション教育の目指すところを、今の世の中でいかなるメッセージとして発信すればよいかを考えます。

「文化的背景が異なる人々とのコミュニケーション」が異文化コミュニケーション。だから「違いを認め、尊重する」ことができるようになろう。私たち(山本・石黒)を含め多くの異文化コミュニケーション関係者には、国際化時代を経てそのアプローチを採用してきたという歴史があるといえるでしょう。しかしグローバリゼーション、さらには SNS やオンライン上でボーダレスなつながりを経験している今の若者の価値観は多様化しています。その反面、エコーチェンバー現象に代表されるように、コミュニティの閉鎖性に気づくことのないまま考えが先鋭化されていることを自覚せず、当然視してしまう自文化中心主義も出てきています。社会ではどうかというと、「多様性」という言葉の使用場面が増え、個人の多面性や少数派になることの意味を、より繊細にとらえられることへの必要性が高まっています。その一方で、顕在化した人々への異なりに対し、どう接すればよいかわからないという戸惑い、あるいは拒否反応も生じています。「個人として見ればよい」と個人化させる意見や「線引きするのがよくない」と同類化させる意見もあることでしょう。

このような現代的な課題がある中で、異文化コミュニケーションを学ぶべきと言えるのはなぜか。参加者の直面している課題やその取り組みを共有していただく中から考えてみませんか? 『異文化コミュニケーション・トレーニング: 「異」と共に成長する』(2022年, 三修社)をお持ちの方は、当日お手元で参照できるようにご用意ください。

ワーク1) 「〈異〉を語ろう!」(p.180)の実践。山本の授業では学生に5分程度のプレゼンを行ってもらっています。ポジティブな反応が非常に多いエクササイズです。参加者には当日までにご準備いただきたいお話の内容をご案内します。準備する時間がない場合は語り手にならず、見ていただくだけでも構いません。Micro-otherness (小さな他者性)からのアプローチとして2022年にThe Forum on Education Abroadの年次大会で発表したところ、身近な話題を取り上げる意外性がやや驚きを持って受け止められました。また、より年少の生徒にも応用できることへの反応

をいただきました。

ワーク2)「異文化コミュニケーションを学んで楽になれた経験」本書を書く際、山本と石黒は「楽になれる」ことを重視していました。楽ではないことをするからこそ、うまく自分なりの調整をつけられることが大事と考えたからです。何を学べたとき楽になれたのか、それらが自分にどのような影響を与えたから楽になれたのか、そもそも「楽になれた」というのはどのような状態・状況を生み出したことだったのか等を言語化し、本書に掲載されている理論や概念との関連性を探して、楽になる知恵を授業でどう活用できるか考えてみましょう。「楽になる」という言語化のほかに、異文化コミュニケーション学の果たす役割をどう言語化できるのかについても考えながら、異文化コミュニケーションがなぜ今、人々にとって必要と言えるのかを共通知識化していきましょう。

## 第2回 2023年7月15日(土) 13:00~16:00

テーマ：ステレオタイプを乗り越える：文化や社会的カテゴリーを用いることが不都合ではなくなる文脈を確立する

講師：鈴木有香・山本志都・石黒武人，方法：対面(東海大学品川キャンパス、1号館2階1201教室)，

日本語 Language: Japanese

ワークショップ概要：

企業や大学における異文化トレーニングとファシリテーションの専門家である鈴木有香先生を中心にしています。第5章の観測カテゴリー、第10章のコンテキスト・シフティング、第11章のステレオタイプなど、いくつかの章について、これらの章を授業で取り上げるための教材、問いかけ、対話のテーマなどを互いに持ち寄る企画です。知覚構成主義の立場で教材をつくり、実際にそれらを体験して、改善点等を考えます。



## 第3回 2023年9月3日(日) 13:00~16:00

テーマ：異文化コミュニケーション教育の新たな出発点：あいまい、あやふやになっているところを整理する

講師：Milton Bennett・山本志都・石黒武人，方法：対面(in-person)場所については、後日連絡いたします。

日本語と英語 Language: Jpn & Eng

ワークショップ概要：異文化コミュニケーション教育の中であいまいなまま過ごしていて気になっているところなどを整理するワークショップにしたいと考えています。たとえば異文化コミュニケーションにおける Similarity base と Difference base のアプローチをどう考えるかについてです。かつてゴールデン・ルール(共通点ベースのシンパシー)とプラチナ・ルール(違いに基づくエンパシー)の著書もあるミルトン・ベネット博士はこの問題を今はどう考えているのでしょうか。最後に、これまで3回を通して私たちが考えてきたことを学習者に伝えるためには、どんな風に教材化できるかについてみなさんと考えます。

第1~3回講師：山本志都 (東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科教授)

専門は異文化コミュニケーション学、異文化感受性研究、異文化トレーニング。M.A. (Speech Communication, Portland State University)、博士(教育学、上智大学大学院総合人間科学研究科)。著書に『異文化コミュニケーション・トレーニング:「異」と共に成長する』(三修社)、『異文化間協働におけるコミュニケーション:相互作用の学習体験化および組織と個人の影響の実証的研究』(ナカニシヤ出版)、「異文化感受性発達尺度の開発:日本的観点の導入と理論的整合性の向上」(多文化関係学19号)などがある。

**第1～3回講師：石黒武人**（立教大学異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科准教授）  
 専門は異文化コミュニケーション学、組織ディスコース研究。M. A. (International Studies, University of Oregon)、  
 修士（異文化コミュニケーション、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科）、博士（異文化コミュニケーション学、同研究科）。著書に『多文化組織の日本人リーダー像：ライフストーリー・インタビューからのアプローチ』（春風社、日本図書館協会推薦図書）、『多文化チームと日本人リーダーの動的思考プロセス：グラウンデッド・セオリーのからのアプローチ』（春風社）などがある。

**第2回講師：鈴木有香**（早稲田大学紛争交渉研究所招聘研究員）

アクティブラーニングの専門家として、「異文化コミュニケーション」、「チームビルディング」、「コンフリクト・マネジメント」などの研修をデザインし、企業、高等教育機関で実施している。オンライン『エコトノス』開発チーム・リーダー。主な著書に『交渉とミディエーション』、『人と組織を強くする交渉力』、『文法の弱いあなたへ』（凡人社）、「オンライン授業のためのZoomレッスン」（実教出版）。P. コールマン博士の著書“Making Conflict Work”を共同翻訳したものと『コンフリクト・マネジメントの教科書』（東洋経済新報社）がある。

**第3回講師：Milton・Bennett** (Intercultural Development Research Institute, Executive Director)

専門は異文化コミュニケーション理論開発と教育。異文化感受性発達モデルがよく知られている。M. A. (Psycholinguistics, San Francisco State University)、Ph. D. (Intercultural Communication/Sociology, University of Minnesota). 著書に Basic Concepts of Intercultural Communication: Paradigms, Principles, & Practices (Intercultural Press), Handbook of Intercultural Training (3rd. Ed., Sage), American Cultural Patterns: A Cross-Cultural Perspective (co-author with Edward Stewart, Intercultural Press)などがある。

【参加費と申し込み】Peatixからお申込みください。申し込み時に**会員番号の入力**のない方は受付しかねます。  
**会員の方はお名前の後に会員番号をご入力ください。**

日時 Date	場所 location	Peatix の URL	会員 member	非会員 Non-member	学生 student
6/25	Zoom	<a href="https://sietarjune.peatix.com">https://sietarjune.peatix.com</a>	600 円	1000 円	0
7/15	対面 In person	<a href="https://sietarjuly.peatix.com/">https://sietarjuly.peatix.com/</a>	600 円	1000 円	0
9/3	対面 In person	<a href="https://sietarseptember.peatix.com">https://sietarseptember.peatix.com</a> (7月以降にアクセスできます/Access will be available after July.)	1000 円	1500	0

◇ お申し込みが確認された方には後程、ZOOMのアクセス方法など詳細をご連絡します。

7月15日の場所について

東海大学品川キャンパス: <https://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/campus-shinagawa/>

1号館2階1201教室

JR山手線・京浜東北線「高輪ゲートウェイ駅」より徒歩12分

東京メトロ南北線「白金高輪駅」下車、出口1から左に進み、徒歩約8分

問い合わせ先 (Please contact): プログラム委員長 (program directors): 鈴木有香 (日本語) Soyhan Egitim (English): [programs@sietar-japan.org](mailto:programs@sietar-japan.org)